

飛驒山脈ジオパーク構想
ジオサイト(第14章)

黒部五郎岳(中ノ俣岳)

「黒部五郎岳」は、その名が示すように越中の黒部川の流域に位置しています。そして、山頂の南側が高山市、北西部が飛驒市そして北東部が富山県立山町に属しています。ところが現在用いられている黒部五郎という名称は、なぜか信州側での呼称です。五郎は、ゴロゴロした岩場にちなんで付けられたといわれています。

なお富田禮彦^{とみだいりひこ}編著「斐太後風土記」の中に「騎鞍嶽山脈連逮」という図があります。その絵には、乗鞍・鎗穂高・笠などの左側に中俣嶽・北俣嶽が描かれています。この中俣嶽が、飛驒側での呼称なのです。五万分の一地形図にも黒部五郎岳(中ノ俣岳)と書かれています。

ちなみに越中名は「鍋山」といいます。この山の東山腹に氷河によって削り取られたカールが鍋のように見えるので名付けられたのでしょう。ここ黒部五郎岳に限らず飛驒山脈にはカール、U字谷など数多くの氷河地形が残されて

いることでも有名です。最終氷期(ウルム氷期…七〜一万年前)に形成されたものです。

さて中ノ俣岳の山頂部分は、手取層という礫岩、砂岩といった堆積岩からできています。中生代に福井・岐阜・富山県に広がっていた手取湖(海と繋がった時代あり)の堆積物です。その一部は国府町の荒城川沿いにも見られます。その高低差は、二千三百メートル余になります。しかし、堆積したのは、少なくとも〇メートル以下であり、中ノ俣岳は、飛驒山脈の大きな隆起の物語を今に語りかけています。

(飛驒地学研究会 下畑 五夫)



スカイパークから見た黒部五郎岳(中ノ俣岳)

問合

飛驒山脈ジオパーク推進

協議会

☎0578-8410038